

令和5年度ウミガラス保護増殖検討会

議事概要

- ◆日時：令和6年1月29日（水）13：30～15：30
- ◆場所：札幌エルプラザ 環境研修室1・2（オンライン併用）
- ◆出席者：配布資料参照
- ◆議事概要 ※○：委員 ◇：オブザーバー □：環境省

議題（1）. 令和5年度ウミガラス保護増殖事業の実施結果

1. モニタリング調査結果及び対策実施結果について →【資料1-2】参照

（モニタリング方法について）

- 飛来数モニタリングについて、個体数をより正確にカウントし、経年比較できるような手法・体制を検討すべき。また、ロードマップのモニタリング方法に関する記載も適宜変更するとともに、どのような手法で個体数をカウントしたのか、明確に記述すべき。
- 実施可能な体制を含め、モニタリング方法を改めて整理する。
- 平均給餌頻度の経年変化（図18）について、ヒナ1羽あたり一日の給餌頻度を算出すべき。
（個体群全体への給餌状況を表すグラフにすると、その年のヒナの数に左右されるため、餌状況の良し悪しが分からないため）
- ウミガラスが給餌した魚種（図17）について、タイプA~Dの4つに分類しているが、より詳細に分類した方がよい。特にタイプAに集約されているイカナゴ、ニシン、カタクチイワシは分けて集計した方がよい。ウミガラスの餌資源量と繁殖の関係を議論するためにも重要な情報である。これまでのデータも精査し、表などにまとめて報告書に記載してほしい。魚種が分からない場合は、専門家に確認してもらうのも良いと思う。また、録画データやそれをまとめたものをWeb上で公開してもよいと思う。

（減少要因について）

- 飛来したウミガラスのうち巣棚を利用した個体の割合はどの程度だったのか。カメラ設置のタイミングが少し遅かったことによる繁殖への影響は考えられるか。
- 巣棚内のカメラ映像から、最大で89羽が巣棚を利用しているのを確認している。産卵数が少ないことから、繁殖のために巣棚に入った個体が少なかったのではないかと考えている。カメラ設置は、ウミガラスが海に出ている日中に実施していたため影響は大きくないと思われる。
- 今年はカメラの不具合により撮影が停止していた期間があったことから、産卵数が少ないのではなく、何らかの理由で卵が消失した可能性も考えられる。巣棚に入った個体数や産卵数を明確にするためにも、今後はモニタリングカメラの不具合が生じないよう改善してほしい。
- 2023年のカラスによる捕食数は例年に比べて同程度である。抱卵期に入っても捕食数が多かったのが今年の特徴である。
- 繁殖数が減少した理由がカラスであるとは断言できないが、ウミガラスに執着している特定の個体については早急に対策を検討しなければならない。
- 気候変動などの原因により、天売島周辺海域の餌資源状況が変化していることは事実であり、餌の質は悪くなっていると推論できる。餌資源の把握のため、海水温や漁獲量に関するデータを、収集して整理してほしい。北大ではウトウの餌資源についてのデータは収集しているので、参考にしてほしい。漁獲量については水産資源研究所や北海道立総合研究機構がデータを取得している。海水温デー

タは衛星画像から得られる。

議事（2）. 令和6年度ウミガラス保護増殖事業の実施計画

1. 令和6年度ウミガラス保護増殖事業実施計画について →【資料2-1】参照

- デコイの撤去が、産卵・繁殖率に影響している可能性は低い。
- 撤去による影響があったかどうかの検証は1年ではできないと思うので、再設置はせず様子を見た方がよい。巣棚の広さの確保も今後の繁殖数を増やす上で重要になってくる。
- デコイの再設置はせず、来年度は様子を見たいと思う。
- モニタリングカメラのメンテナンスを含め、調査スケジュールについて、天候の乱れなどを考慮して滞在期間を長期に設定するなど、改善に向けて検討してほしい。
- 現行の体制の中で努力していく。

2. 捕食者対策の実施について →【資料2-2】参照

- ワナによるカラス対策は、ウミネコなどの混獲の恐れ、カラスが入りやすい設置場所の検討、餌やおとりを用意する必要があり対策が難しい。レーザーも、他の鳥類への影響が考えられる。繁殖地周辺でのカラス対策は、結果的にウミガラスへの悪影響が生じる可能性もあるので慎重に行うべき。エアライフルによる駆除は最も大変だが、効果が確実であると思う。

3. ウミガラス生態調査の実施について（足環の装着等） →【資料2-3】参照

- 足環やデータロガーの装着を前向きに検討すべき。飼育下においてはヒナの捕獲による巣立ち雛や成鳥への影響はないと断言できる。海外では野外での装着事例もある。
- 来年度の繁殖状況を注視しつつ、足環の装着に取り組む。

4. モニタリング方法の検討について →【資料2-4】参照

- 巣棚内にカメラを設置することは、基本情報を得る上で不可欠である。未だ100羽程度の個体数しか飛来が確認されていない状況で、何か起こった際の原因究明のためにも、最優先で継続すべき。
- 昨年の検討会では、いずれ岩棚が崩れてしまい、カメラが設置できなくなる可能性があるとのことだったが、現在の進捗はどうか。
- 浸食が進行しているのは確かで、10年後どうなっているかは分からないが、来年、再来年にはカメラの設置が不可能となる状況ではない。ただ将来的には巣棚が崩れることも念頭に置き、モニタリングの手法を検討したい。

議事（3）. その他

1. 動物園水族館における傷病鳥の受け入れ態勢及び飼育下繁殖について →【資料3-1】参照

- ◇円山動物園としては、ウミガラスの傷病個体を受け入れたい考えがある。北海道の海鳥保全には、今後も前向きに関わっていきたい。
- 今年度は外傷のないウトウの死体が海に複数浮かんでいた。今年は調査には至らなかったが、今後は高病原性鳥インフルエンザについても留意したい。